

2022（令和4）年度 第1回 教職課程に関するFD・SD 合同研修会報告書

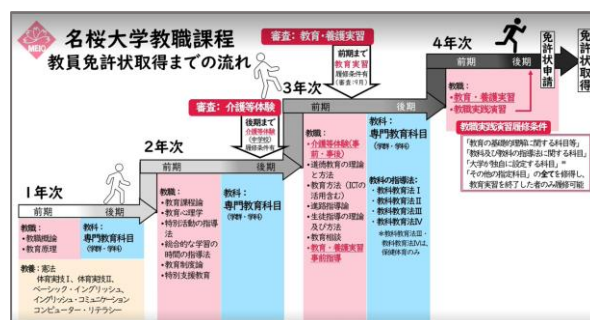
11月22日（火）、第1回教職課程に関するFD・SD研修会を環太平洋地域文化研究所研修室及びオンライン(Teams)のハイブリッドで開催しました。授業や会議等で参加できなかった教職員には動画視聴による研修会となりました。教員52名、職員18名、合計70名の参加がありました。

2022年度から教職課程を置くすべての大学において、「教職課程の自己点検・評価」を実施すること、さらにその成果を社会に情報公表することが義務付けられました。それは、大学自らが教職課程の活動について点検・評価することにより、その結果をもとに教員養成の改革・改善に努めるとともに、主体的に教職課程の水準を維持・向上させていく仕組みを確立し、教職課程の質を保証することが目的です。さらに、自己点検・評価を効果的・効率的に行うためのFD・SD研修の実施も求められました。

今年度は、教職課程の自己点検・中間評価を実施し、それらの課題の改革・改善に向けて教職課程に関する情報収集を行いました。その結果、2023年度の本学の学科改正に伴う教職課程認定の申請手続きについて、教職課程に関してすべての教職員の共通理解を図る必要性が指摘されました。そこで今回はFD・SD合同研修会を開催することになり、教員養成支援センター教員及び教務課職員が連携して説明を行いました。その内容は、①教職課程に関する現状報告、②教職課程認定の申請について、③教職課程申請から分かった本学の課題、④教職課程の自己点検・中間評価から分かった本学の教職課程の長所や課題についてでした。

事後アンケート結果から、全教職員に本学の教職課程における現状を共通理解してもらうこと、課題を収集し改善に向けた方策を講じる必要があることが、今後の質の高い教員養成につながることを改めて認識する機会となりました。

ご多忙の中ご参加いただき、貴重なご意見を賜りました先生方に、心より感謝いたします。



以下に、研修会の事後アンケートから参加者の要望、感想等を一部ご紹介いたします。

◆ 質問や要望、感想等

大学教員は教育、研究、運営の3本柱を使命として勤務していると考えています。お話を聞いた限り、大学で教職課程を提供するにあたって、バランスよくこれらを実行することが求められていると見受けられました。しかし、特に教職関係の科目を担当されている先生方に対しては、大学の規定にある「名桜大学専任教育職員の担当授業時間等に関する基準」が守られていないように思います。提供する教員側に余裕がないと、よりよい質の授業、専門課程を学生に提供できないと考えます。したがって、所属する専任教員がいるからといって、担当してもらえただけ授業を担当してもらうのではなく、お話にあったように、運営陣には人的予算の確保を優先的にお願いしたいと思います。大きな問題だとは思いますが、予算が問題なのであれば、大学全体として予算のバランスを考えていただきたいと改めて思いました。

研修会の開催、お疲れ様でした。しっかりとした研修会を開催して頂き、たいへん勉強になりましたし、本学の課題が、教職課程の申請・運用を一握りの教職員に任せていることが課題であると明確に理解できました。第3期中期計画では、教職課程の評価指標を設定できたことから、今後は、学科会議等にて教職課程の自己点検・評価の風土が醸成されていくことに期待したいと思います。

まだまだ勉強不足で理解が追いつかない部分もありましたが、全学体制で取り組む必要性について、理解いたしました。早く大学経営にも慣れて、色々と協力できるように努めます。

・教職希望でない学生も卒業単位のために教職科目を履修している学生が問題となっているが、教職科目を履修する学生は登録制にしたりするなどの方策が必要だと思う。また、教育実習を行った学生は必ず教員採用試験を受験するような指導も必要だと思う。

・教職科目（教科に関する科目）を担当する教員は負担が大きい。科目が通る教員とそうでない教員で、給料が変わらないのであれば、担当する教員のモチベーションは上がらないと思う。教員公募の公募要領に教職課程の科目（具体的な科目）を担当することを明記する必要があるのでは？
簡潔明瞭に各内容を整理、ご報告いただきありがとうございました。 名桜大学の教職課程の歩みや特色、今後の課題がよく理解できました。全国的にも、公立大学における教職課程は国立や私立と比較しても様々な面で課題が多いと認識しています。 他大学の取り組みや実態などとも比較をしながら、本学で取り組むべき課題や魅力を考え、公立大学の中でも光るような教職課程を実現、アピールできれば良いなと感じました。 学生にとっても教職員にとっても、魅力ある教職課程を実現できるよう、私も尽力できればと思います。
来年度、もし実地調査になった場合、私たち教員が準備しておくべきことについて、知りたいです。
センターの方が非常に熱心に、教員養成のために（学生のために）取り組まれていることがわかりました。ご報告にもありましたが、これまでの教員養成について情報を（大学のホームページなど）しっかりあげていくことは、大学の成果、アピールにもつながり、学部・研究科の入学者を増やすことにもつながっていくように思います。職員・教員ひとりひとりが、自身が関わる仕事だということを認識して、職員・教員がセンターの方々とはしっかり連携していく必要があると感じました。
教職科目を受講する学生数に対し、実際に教員採用試験を受験する学生数が少ないことが気になりました。「将来のために念のため資格が欲しい」という学生の気持ちも理解できますが、「教員」という非常に激務かつ若い人たちの将来を左右する職業の資格なので、「合格者」「受験者」「未受験者」それぞれの成績等を考慮しながら、講義受講資格をもう少し厳しくしてはどうかと感じました。
必修要件である体育実技の担当者不足が問題になっております。 全学的な課題として捉えていただけるとありがたいです。
毎年、定期的に開催した方がよい。
何故 この教職課程認定申請をFDにしたのが理解できなかったです。 看護学科はカリキュラム改正ではこのようなことがなかったのは看護学科のみのことであったからなのか、教務課がこのように申請事務を実施していただけることを早めに理解するべきであったと反省しました。
多大なデータを公表説明するための準備の時間に感謝します。全体で取り組む必要性を理解する上で、意義のあるFD研修会であったと感じています。知らないことが多すぎた、と感じました。
本件に関して全学的に取り組むべき重要な課題であると改めて認識直しました。恥ずかしながらこのような機会があって初めて教職課程に関しての本学の取り組みや内容を垣間見ることができました。今後、一教員として積極的に本学の学生（特に教職を目指す学生）に対して支援していきたいと思います。大変有意義な研修だと思えます。ありがとうございました。
初めての教職FD・SD研修会で教員養成課程の数値や、課題、実績などを共通理解する良い機会となった。本学では、教育、研究、看護や教員などの免許取得などにそれぞれが精励していると考え、が、「教職のために雇われた教員のみに教員養成課程を任せるのではなく、全教職員で共通理解する一歩になることを望む。
短い時間ではありましたが、教職課程認定制度等に関する概要や問題点等が報告され、教職員全体で共通理解できる良い機会でした。お疲れ様でした。
教職課程についての基礎的な情報について良く理解することが出来ました。有難うございます。
国語、社会の認定に向けた課題について次回以降より詳細なご説明を期待しております。
北部教育研修センターの教員養成講座と特に関連がある内容なのでその重要性や課題が把握できたので有意義でした。